

Heart View Press

July & August 2004

Team Events

鶴見川ラン練習会

オープンウォータースイム&ビーチラン



Race Reports

第2回山形庄内オープンウォータースイムレース
アイアンマン・コリア

ケンスカップ・佐野トライアスロン参戦記



Special Report

道東・バイクツーリング・ダイアリー

July 04

鶴見川ラン練習会

開催日 : 平成16年7月25日(日)
天候 : 晴れ
気温 : 35度
集合場所 : ハートビュー横公園
時間 : 9時~11時30分
コース : 鶴見川河川敷(下流方面への左側土手)
参加者 : 永田さん、西田さん、網島さん、関口



今年の夏は昨年の冷夏とはうってかわっての猛暑。
連日35度を超える日が続き、テレビでは熱中症で病院にかつぎこまれるニュースが連日のように報道されていました。
練習会当日(7/25)も恐ろしい暑さでした。
正直、自分自身「この暑さの中、本当にやるの!？」と幹事のくせにかなり引き気味になっていました。
当日は暑さにもめげず、永田さん、西田さん、網島さんに参加していただきました。
網島さんは、レース間近(チェジュ)のため家から集合場所まで走ってきたそうです。
(家から7K。う~、この暑さの中、すごすぎる。)
永田さん、西田さんは自転車。私はというと原チャリで。
(一番楽しんでしまいました。)
午前9時。すでにながりの暑さの為、決して“無理はせず”軽くジョグペースで行く事として鶴見川沿いの公園を出発。

新羽橋、横浜国際競技場、港北高校横を越え網島の東横線陸橋下まで行きました。
本来の予定だと、もうちょっと下流まで行く予定でしたが暑さの事もあり、ここで折り返すこととしました。
復路では、網島さん、西田さんに私と永田さんはかなり離されてしまいました。二人ともスゴイ。
そして11時半、この炎天下の中、約12Kを走破。無事4人ともスタート地点へ戻って来れました。
ゴールした後、永田さんからみんなにフルーツポンチのご馳走が!!!!
みんな“おいしい!おいしい!”と、すべて平らげてしまいました。
永田さん、本当にご馳走さま!

《実施して》

初めての練習会幹事で、いろいろ至らぬ点が多かったと思いますが、参加していただいた皆さん、ありがとうございました。

(藤井さん、開催に関してのアドバイス、色々ありがとうございます。)

みんなでゆっくり行ったせいか、走りながら皆さんからいろいろな話を聞いてよかったです。(7月イベント担当: 関口)



おいしい!!おいしい!!



ご満悦の西園嬢

オーシャンスイム&ビーチラン August 04

日時 : 2004年8月8日(日曜日)

場所 : 三浦海岸「海の家 魚敬」

参加者 : 永田さん、網島さん、中野さん(ゲスト)、佐藤

応援で、網島美和さん、莉咲ちゃん(4才)、桜香ちゃん(3才)



今日も朝から暑い一日が始まりました。現地には9:30に集合。海の家が場所が昨年とは変わり、より中央部に近い混み合った所に移動していました。海の家は割り合い空いていましたが、砂浜にはビーチパラソルが一杯でした。

10:00にスイムをスタート。海水浴場の境にあるブイ付近で泳ごうと沖に向かいましたが、そこにはクラゲがうようよ。さされそうなので、浜とブイの間ぐらいを泳ぐことにしました。

まずは北上して10分間のアップ。人が多くて生温かい海です。次は折り返し、ズーっと南下して、岩場のある方に向かいました。時々休みながら、オーシャンスイムを楽しみました。南下した方が混雑もなく水温も低めで気持ちが良いようでした。

網島さんと中野さんは気合が入っているようで、二人でど

んどん岩場に向かって行きます。三週間後にチェジュの大会を控えている網島さんはウエットスーツの感触を確かめるように泳いでいきます。中野さんは私と同じスポーツクラブに通っている人です。今年はパンプキン5キロを完泳し、調子が良いようです。永田さんは泳ぐと鼻水が出てしまい、あまり泳いではいないとのことでした。今日は大丈夫なようでしたが？

約一時間、海の中に入っていました。2km~2.5km位泳ぎました。海の家に戻り、水分補給をして次に移ります。網島さんと中野さんはもっと泳ぎたいとのことなので、二手に分かれまして。永田さんと私がビーチランを。一本目は砂浜を約2km、14分。砂浜に足を取られ、重たく膝に來ました。二本目は少しスピードを上げ、歩道を南端まで往復して約3km、17分走りました。海組は約20~25分ペースを上げて泳いだそうです。

2年ぶりの海でスイムが気持ちよかったです。(永田さん)

うねりが高く、タフな泳ぎになりましたが、良いトレーニングになりました。クラゲの大群に囲まれて「ファイティング・ニモ」状態になったときはヤバイと思いましたが、家族みんなで楽しめました。(網島さん)



私としては、イベントの告知が遅くて皆さんには大変ご迷惑をおかけしました。反省しています。来年は気合を入れて開催したいと思いますので、よろしく願います。(8月イベント担当:佐藤)



第2回山形庄内 オープンウォータースイムレース



日時: 2004年8月22日

場所: 山形県鶴岡市湯野浜温泉海水浴場

報告: 後藤

昨年に続き今年も、地元山形で開催のオープンウォータースイムレースに参加してきました。場所は日本の美しい渚100選にも選ばれている湯野浜海水浴場です。雨の昨年の大会とは違い、夏の太陽が帰ってきて絶好のイベント日和、なんか心までウキウキしてきます。会場のとなりでは、先週まで営業をしていた海の浜茶屋の解体作業が進んでおり、ああ～夏も終わってしまうんだなあーとちょっとセンチメンタルな気分にもなってしまいます。そんな中、FM新潟のDJがゴキゲンなノリノリサウンドで大会を盛り上げてくれて、参加選手もいつでも準備OKって感じになってきました。

競技種目として、400m、800m、3200m各個人の男女に、800m×4名のリレーの部がありました。私が参加したのは、男子個人の3200m。9月の佐渡に向けて海でのロングスイムに慣れておこうというのと、良い感触をつかむのが狙いです。オープンウォーターは原則として、ウェットスーツ禁止なので、トライアスロンの時のようなスイムの感触ではないと思うのですが、それはそれで、パンツ一丁で大海原を泳ぐのはとても気持ちの良い事です。10時に

選手召集、そして10時10分いよいよスタートです。コースロープはなく1周1.6キロの三角コースを2周回します。ブイを目標に時々ヘッドアップで泳ぐのですが、多少波があるためブイを見失ったりして、ややコースからそれて泳いでしまったり、やはり海は経験を積まないと難しいですね。1周目を約35分で終え、2周目になると辺りに泳いでいる人はチラホラ程度でさびしい感じ。結局2周目を約45分で終え、トータル1時間18分でフィニッシュでした。男子のみですが参加35名中27位の成績でした。やはり泳ぎに自信のある選手が参加しているという事で、皆さん大変速かったです。1位の人は45分で泳いでいました。この大会は個人での参加が基本ですが、観ていると大学の水泳部や、スイミングクラブの愛好会などチーム参加の選手が多く、最後のリレーの部はその人たちで大いに盛り上がっていました。このレースを主催する“日本を泳ごう委員会”(<http://www.openwater.gr.jp/>) は全国で大会を開催しています。チームイベントの一環として、ハート・ビューチームが参加できたらイイですね。

報告者: 後藤 武郎



アイアンマン・コリア

日時 : 2004 年 8 月 29 日(日曜日)
場所 : 韓国、済州島
気温 : 25.7 度
参加者 : 大石さん、綱島
報告 : 綱島



今年のアイアンマン・コリアは、ドンピシャで到来の台風 16 号の影響で、スイムパートは中止、バイクとランのデュアスロンとして開催されました。台風の進路によってはレースの開催自体が危ぶまれていましたが、奇跡的に台風の進路がずれたために、2 種目とはいえ、なんとかレースは開催されました。とはいえ、個人的にはスイムも是非やりたかったのですが、5メートルを越す高波を目の前にすると、仕方がないのかなあと腹をくくりました。実際、レーススタート 1 時間半前の発表では、3 種目を行うという案内があったのですが、スタート地点がある済州島南岸一体に警報がだされ、サポートの船やダイバーが沖にでられないこと、コースブイがはれないことなどから、スタート時間の 1 時間前に最終決定として、2 種目での開催ということになりました。



この台風の影響で、帰国予定だった月曜日のフライトが全便欠航になり、延泊の手続きをしていますが、成田便だけは飛ぶことになり、なんとか終電で横浜までたどり着きました。帰国後のニュースで、台風 16 号が各地で観測史上に残るような大型で、死者まででるような被害があったことを知り、2 種目とはいえ無事にレースが開催され、予定通り帰国できたことは、とても幸運だったと思いました。
レースはというと、風は強かったものの、雨は全く降ら



ず、晴れっばなしで日差しは強く、30 度を越える暑さの影響で、どちらかというとハードなコンディションでした。自分のタイムは、練習量の少なさがそのまま結果に表れた、散々な結果でした。<Bike : 6:56 ·Transit 0:04 ·Run : 4:39 · Total : 11:40 (344 位/1061 人)>練習量という裏づけがないままに、レース序盤から踏み込んでしまい、バイクの正念場である山登りパートにたどり着く前にあっけなくつぶれてしまいました。ランに入り、遅れを取り戻そうとハーフを 1:54 で入ったのですが、見事後半に失速、なんともやりきれない、自分の実力のなさを痛感した、悔しいレースになってしまいました。



反省点としては、デュアスロンになったことで、スタート時間が 1 時間半遅くなり、スタートを待つ間、ず〜とストレッチをされていて、スタートする前にひざ裏のスジを痛めてしまったこと、風が強くとドラフティングをしながら抜かしていく連中が多かったので、ムキになって追いかけてしまい、自分のペースを乱したこと、それとレース 1 ヶ月前にバイクのサドルポジションを変えたのですが、(ご法度だとはしりながら・・・)十分調整しなかったために、レースで足への負担が大きく、最後まで持たなかった、などなど、なんだか初歩的なミスが重なり、久しぶりのレースを台無しにしてしまった感じです。

ともあれ現地では、色々な人たちと交流もでき、なかなか合宿のような雰囲気のでレースに臨めたので、楽しかったです。

(メールより転載:西田)

今回のチェジュでは、大石さんが落車し怪我をするというハプニングがありました。大石さんから、怪我の経過のご報告と皆さんへのアドバイスをいただきましたので、併せてご紹介します。

チェジュでは折からの台風。下り直線コースで横風突風に煽られ対向車線まで飛ばされ、落車横滑りました。ケガは、予想以上に回復が速く 9/19 にプールに入れました。ただ 3 週間何も出来なかったので泳力は落ちていて今もまだいつもの距離がこなせません。98 年珠洲の落車で同じようなケガを経験していたので今回は帰国まで平静に対処できました。帰ってから病院へ行ってはじめてかすり傷でないことに気がきました。現在、完治しましてリハビリに動んでいます。

<ご参考まで>

私が行った病院では、海外のレースでケガするアスリートには破傷風の免疫注射を薦めているとのことでもやりました。先ず 2 回の接種が済み向こう一年は免疫があるので大丈夫、あと 1 年後にもう一度やって 5 年間保障とのことでした。ケガのススメみたいですが、そうしょっちゅうケガしているとバイク何台あっても足りないですよ。ところで今回、ピナレロに付いていたパーツを使ってフレームを新しくしました。店長にはお世話になりました。写真がありませんのでバイク練習の時にでも見てやってください。F E L T の S C 1 というスキャンジウム&カーボンのハイブリッドフレームです。(大石)

ケンズカップ・佐野トライアスロン参戦記

今年は引越しなど春からバタバタしたので、TA に出るのは夏以後だと思っていた。8月に知多の美浜に51.5kmがあるので出ようと要綱を取り寄せたが、前日受付で医師の健康診断書が義務と煩わしく、申し込まなかった。9月19日に佐野に出ることは決めていたが、8月下旬になってその前日土曜に立川で25.75kmがあることを知り、二日連続になるが出ることにした。日程的にも1年に何回もないチャンスである。佐野が終わったあとは大船で鎌倉水泳協会の人とイベントの打ち合わせをし、翌日は厚木の上落合でなじみの床屋へ行ってから清川の宮が瀬でハートビューの練習に顔を出す予定とした。

17日(金)は勤務先を早退した。電車で40分ほどかけて帰宅し、17時ちょうどに車で出発する。自宅から名古屋ICまで結構遠いので、国道23号から豊明経由で1号から岡崎に出て東名に乗る予定だ。1号は混んでいた。ラジオはプロ野球のストのことばかり。18時半ごろにやっと岡崎ICから東名に入る。名古屋ICからのほうがよかったかも知れない。

東名もかなり混み、スピードが出ない。ラジオが気になっていたが、21時すぎにストが決まる。本当にやったとは驚きだ。損害賠償が気になる。そんなひどいことを選手にするだろうか。考えているうちに22時すぎに沼津へ。以前に泊まったことのあるカプセルホテルに入る。結構設備はいいのだが、上下左右から聞こえる他人の音はやはりうるさかった。0時ごろまでテレビでストのニュースを見る。

18日(土)は3時半ごろから目は覚めていた。5時半ごろ起床して出発。246号、129号、八王子バイパス経由で行く。途中で事故もあり、ひどく混んでいた。立川市内でも迷い10時15分ごろやっと会場の国営昭和記念公園に入る。この公園は旧陸軍立川飛行場だった。空襲も受けたのでは？ ミリタリー色を消そうという意図か、池を作り花を植えてずいぶん整備してある。

受付のあと戻ってきて荷物を揃える。3日間雨だったり洗濯ができなかったりしたことを考えて着替えを大量に持ってきたので面倒だった。知った人はいないようだ。空は曇りで風が強く、レースにはよさそうだった。自分の組は12時30分スタート。1周320mのプールを2周と1/3する。浅いのでイルカ飛びができるが、速い選手はちゃんと泳いでいる。水温はちょうどよく、スーツなしで行く。感触はよく11分46秒であがってバイクへ。股ずれ防止のためスパッツを履こうとしたら足にひっかかりかなりタイムロス。どうやら平衡感覚が落ちているようだ。バイクは園内5kmを4周するゆるい起伏とカーブがあるコース。店長にオーバーホールしてもらったので走りはよかったが、こっちの体調が悪いのかボトルのドリンクを摂るたびに息が切れる。練習不足なのか。以前は1周8分台もあったのに、9分40秒から上がらない。正味38分50秒くらいでランへ。シューズのマ



ジックテープの締め直しで少しロスする。ラン5kmは池の横を5往復のコースで、以前出た同じ形式のママーパスタTAのときより実測では少し長いようだった。ゴールは1時間19分50秒。何としても1時間20分を切ろうと思っていたので目標は達成した。



ゴール後は、ビールも飲まず表彰も見ないで15時20分に出発。立川市内でまた迷って引き返したり渋滞にはまったりで16号に出るまで1時間かかり、さらに圏央道の日の出ICまで30分以上かかる。17時20分ごろ高坂SAで夕食。18時前に前橋で下りて17号から50号へ。ほとんど直線で水戸までいく関東横断の国道だ。昼間なら景色が楽しめたのだが。

ラジオは相変わらずストの話題ばかりであった。横浜の三浦投手が球場でサイン会を催したとか。桐生、足利を経由して20時ちょっと前に佐野市内に入る。町並みは2年前とほとんど変わっていないが、佐野駅の前がちょっと開けすぎた感じで古い家並みがなくなっていた。ホテルの駐車場が満杯で、500mくらい離れた公園の横に路上駐車となる。1階に洗濯機があったので洗濯をする。ずいぶん汚れ物があった。11時過ぎに寝入ったのだが3時半ごろ目覚める。空調がちょっとうるさい。

19日(日)、起きたのは6時前だった。のどがやや渴いているし荷物の準備が億劫に感じる。やはり昨日の疲れなのだろうか。怪我が心配だ。ペースを下げて完走することが頭をよぎる。6時20分にホテルを出て7時ちょっと前に会場の運動公園に入ったが、動作がのろいのでバイクのセットアップは制限時間を過ぎてしまった。7時半に開会式に行くと安部さんが来ていたが太田さんは見当たらない。水温26度と聞いてびっくり。スーツなんて要らない(もっとも持ってきていなかったが)。レースで頑張るのか押さえるのかまだ決心できない。

うす曇だったが陽が指し始め、ちょっと蒸し暑かった。10分ほどジョグしてアップとし、8時40分にBウェーブでスタート。スイムは250mのプールを6周する。10mしか泳いでいないのにマジックテープ止めのRCチップのストラップが右脚から取れ、戻っていき付け直して20秒ほどロスする。やっぱりおかしい。1週目に4分40秒。2年前は3分50何秒で行ったはず。さっきのロス以上に体が動いていない。2週目から少しペースが上がリ、正味25分35秒くらいであがる。速い選手にはずいぶん抜かれたが、1周抜いた選手も何人がいた。

☆Race☆ ☆Race☆ ☆Race☆ ☆Race☆

トランジットは前日より1分程度速くバイクへ。これも練習すれば速くなる。公園の南西の田園地帯を一周してから北の田沼方面へ向かい、根古屋キャンプ場で折り返す40km。またボトルから給水するたびに息が切れる。体重も減っていないし、練習不足なのか。いつも夜7時から時速18kmくらいで20~30kmをだらだら乗ってばかりいたから。それでもコースが上りなので踏んで抜いて行く。下りも回して正味1時間15分10秒で終える。これは去年の波崎の次にいいタイムだ。

ランに入ったとき1時間45分35秒と設置されたデジタル時計に出ていた。去年より2分くらいよい。だが、50mもいかないうちに左太ももの内側がつる。しゃがんでストレッチしていると今度は右太ももの内側もつってまたしゃがむ。膝下だけ使って走るようにしているうちどうにか走れる気がしてきたが、どんどん抜かれる。10kmは長いがとりあえず完走しようと思う。コースは住宅街からさっきの田んぼを逆にまわってくるほぼ1周のコース。確か5kmは2年前自分の車のメータで測ったときに最初の給水所の300mくらい手前だったが、その通過に27分くらいかかっていた。このまま54分かかって2時間40分が切れそうだったが、給水のあと一気に疲れが出てウォーク半分になってしまいずるずる落ちる。去年の波崎の2時間47分くらいは上回ろうと思ったが気力が出ず、結局2時間50分を15秒切ただけだった。ランを途中で投げたまま悔いが残った。私は多汗症だが、脱水を気にしすぎていないだろうか。

ゴール後すぐ安部さんと太田さんに会う。前日に立川で自己新を出したことを言い訳に使えたのはよかったが、結

局は実力がなくて遅いだけだろう。太田さんはご家族と来ており、先に帰られた。

13時に会場をあとにして佐野藤岡ICから首都高経由



佐野運動公園プール(夏)

で用賀ICへ向かう。首都高は向島付近でかなり渋滞した。この道路、40年前のものだけど狭いしカーブは多いし休憩の場所はないし、完成当てもハイウェイとは呼べないものだったのでは。東京オリンピックに間に合わせようと急いで工事したらしいし、何か理不尽な圧力があつたのでは。プロ野球

もそうだが、逆らえない権力や圧力にはどうすればよいのだろう。

私は何にも逆らえない。そんなことをふと思う。

このあと、時間があつたので予定を早めて厚木の床屋に行く。そのあと、渋滞がひどかったので平塚で電車に乗り換えて大船へ出て用事を済ませ、大船で一泊する。翌朝早起きはせず、9時前に出て平塚へ行き、そこから宮が瀬へ向かう。10時半ごろビジターセンターに着き、資料館の中を見ていた。丹沢は首都圏の汚れた空気で酸性霧がかかり、ブナなどの樹木が立ち枯れているとのこと。以前よくランした場所なので残念だ。11時半ごろ駐車場へ行って皆さんに会った。藤井さんとは行き違ったようだった。

久しぶりに旅に出て気分転換になった。TAはこれからもショートだけにし、いつか51.5kmで2時間30分を切ってみたい。冬もバイクを練習して。また、今は名古屋に住んでいるが、都合のつく限り関東の行事には出ようと思う。

レース結果：ケンズカップ

順位	スイム 0.75km	バイク 20km	ラン 5km	ゴール 25.75km
157/383 番	11.46	43.18	24.46	1.19.50

レース結果：佐野トライアスロン

順位	スイム 1.5km	バイク 40km	ラン 10km	ゴール 51.5km
149 番?	26.45	1.18.45	1.04.15	2.49.45

*正式な結果がまだ来ていないので、タイムは記憶から概算。

オマケ



ケンズカップのバイクで私の前にいたこの169番の人、あまりにも自分によく似ていたので注目していました。ランで抜いたのですが何と完走者のリストに入っていませんでした。ゴール後タッチ板に触れていないのでは? 同情したいです。

注: 各写真は、Webに掲載されていたものを掲載者に無断でコピーしたものです(問題ないと思いますけど一応)。

道東・バイクツーリング・ダイアリー

2004年7月29日-8月4日

はじめに： 今回の旅行では、平野店長さんに本当にお世話になりました。突然の思いつきの北海道ツーリングを、無茶だと言いながら、一生懸命どうしたら、行って来れるのか、装備はどうするのか、と考えてくださり、ツーリング用の品物を揃えていただき、アドバイスも沢山いただきました。平野店長さんなしでは、今回の旅行はありえませんでした。ありがとうございました。

この旅行では、ノートに毎日びっしりと16ページに渡って日記をつけました。その一部を紹介します。長いので、気が向いたときに時々取り出して読んでやってください。写真も一人旅なので、私の目を通じて見た風景の記録しかありませんが、少しでも雰囲気伝えられれば幸せに思います。（報告：西田）



網走 - サロマ湖-知床-中標津-釧路

知床半島が世界遺産になると聞き、写真集を買い求めた。愛らしい動物たち、山、懸命に自己主張しながらもひっそりと咲く花々、そして厳しい自然がそこにはあった。ページをめくろうと、その最果ての地が目前に迫り、どうしても行ってみたいという衝動にかられていた。それもバイクで。徒歩では限界があるし、自動車では出会いたいものの全てを素通りしてしまう気がした。夢は一挙に広がり、プランが形をなしていった。初めは一箇所を起点に回ることも考えた。ただもし、ある程度のものがバイクに積めて、バイクと自分が一緒に動くことができれば、訪れたい場所の全てを回れる。それに今年の懸案であった、バイク・トレーニングもできる。夢はツーリングへと広がっていった。

7/12(月) JAL のマイレージを確認する。ぎりぎり。よし、行こう！即座にインターネットでチケットを手配した。女満別から釧路、7/29～8/5、8日間の旅。写真集を買い求めてからたった4日しか経っていなかった。

しかしどうしたらロードで行けるのか、皆目見当がつかない。どんな装備が可能で、それで一体何が積めるのか。平野店長さんに相談のメールを打った。「考えておきます」との返事。心強い。「無茶だ」と言われると思っていただけに、急にプランが現実味を帯びてきた。17日(土曜) お店でキャリアケースのカatalogを見せてもらう。荷台を

つけ、それにスライドさせるようにバッグを取り付けるというものだった。

一週間後、お店に行って取り寄せてもらったバックを見ると目を疑うほど小さい。小さ目のショルダーバックくらいの容量。だめだ、何も入らない！「とにかく持っていくものを持ってきて、ここで何がどれだか詰められるか確認して、その上で、ディバックを背負うのか、ウェストポーチにするのか考えよう」と、店長さんが提案。家に戻り、とりあえず衣類などをかき集め、お店に戻った。Tシャツをクルクロと小さく丸め、バイクパンツを小さなビニール袋にキュッキュに縮めて詰める。着替えはせいぜい2組が限度。Tシャツは寝巻き兼用で翌日そのままそれを着ればいい。それに薄いランパン、宿で下着だけしている訳には行かない。後はシャンプーや洗剤、基礎化粧品。タオルはフェースとハンドを2枚ずつ(これは最後にバイクを拭く雑巾となった)。

実際に詰めてバイクに乗ると、たったこれだけの荷物でも、後ろが重くバランスを失う。(実際旅行中にも止まっているときにバランスを失い、2度転倒した。) 要はロードにはこれ以上は積載不能ということだ。後は積み残し分を何とか携帯するために、CWXのバイク用ディバックを購入して間に合わせることにした。

<バイクの装備と携行品について>



ウェストポーチに貴重品、デジカメ、携帯電話などを入れ、走行時は左右のハンドルの間にマジックテープで固定。

キャリアケースに携帯した物



- ・タイヤのスペアチューブ 2
- ・エアポンプ 1
- ・バイクパンツ 3
- ・Tシャツ 3
- ・ランパン 2
- ・ランキャップ 1
- ・ランシューズ 1
- ・靴下 3
- ・タオル(フェース・ハンド) 各2
- ・雨具(ウインドブレーカ) 1
- ・地図(カラーコピーをして)
- ・洗剤(ビニール袋に入れて)
- ・アミノバイタル・携帯電話+充電器
- ・デジカメ+充電器・日焼け止めと基礎化粧品
- ・携帯用の小さいラジオ

7月29日(木) 羽田 - 女満別 - 網走(呼人)

夕方会社から直接羽田へ。殆どの荷物をバイクケースに詰めて送っているので身軽。女満別へは一時間半。実は女満別からホテルまでの公共交通機関を事前にネットで検索したとき、翌朝まで一切なく焦ったのだが、空港に問い合わせたら、乗降客全員が荷物をピックアップした時点で、網走までのバスが出るとのこと。ローカルな空港にはローカルなサービスがあるものだと感心した。漆黒の闇を30分、ホテルのある網走湖畔の呼人へ。まだ夜の8時過ぎだということに、ホテル内はラーメン屋さんしかやっていない。トッピング(なんと貝柱4枚とカニ2本!)をサービスしてもらい幸せな気持ちになって、9時、ロビーの隅でバ

イクケースの梱包を解き始める。ホテルの人やラーメン屋のご主人が覗きにやってくる。物珍しいのか色々な質問をしてくるけれど、その話し方が素朴で温かい。

11時、準備完了。たっぷり2時間かかった。温泉にゆっくり入り、12時過ぎに就寝。



網走湖(呼人付近)

7月30日(金) 網走(呼人) - サロマ湖 - 網走(呼人)

7:30起床、快晴。9:00 サロマ湖に向けて出発。ホテルのある呼人から網走湖岸を抜け、オホーツク自転車道に入る。27キロ以上も続くサイクリングロードだ。車の騒音と離れ、湖と森の中。すれ違う自転車さえ無く寂しい程。空を尾白鷺が大きく優雅に旋回している。能取湖にさしかかると、観光バスが止まっていた。サンゴ草の群生地だ。秋になると燃えるような赤に染まるのだという。ランシューズに履き替えるのが面倒で、バイクシューズのまま木道を歩く。カタンカタンという音に観光客が振り向く。

サイクリングロードに戻り森を抜けると、突然目の前に海が広がった。オホーツク海だ。波はなく、あくまでも静かで人を寄せ付けない冷たさを感じる。ふと手前に目をやるとコンバインが麦を刈っている。稲刈りのコンバインより数倍も大きい。話どおり北海道は何でも大きいんだ、と改めて思う。浅いブルーグレーの海と黄金色の麦のコントラストが美しい。

11時30分、原生花園に到着。自然の花々がサロマ湖とオホーツク海を隔てる幅数

十メートルの細長い陸地を埋め尽くしている。ここまで来てやっと観光客をたくさん見かけた。ネイチャーセンターで一休みして、原生花園の中に湧き出る「ワッカの聖水」を汲みに行く。控えめに力強く野草が咲く



ワッカ原生花園

砂利道の果てに小さな井戸があった。一口飲む。冷たくおいしい。しかし次の一口を味わう間もなく、アブが襲ってきた。少しでも体の動きを止めるとすぐに刺される。内地に劣らない猛暑の中、水場はアブにとって最適な生息地であるようだ。二つのボトルに冷たい水を詰め、早々と退散することにする。



ワッカの聖水

帰り際、草原の間に小道があるのに気づいた。バイクから降りて進むと、眼前に砂浜。グレーの透き通った水。思わずバイクシューズを脱ぎ捨て、足を入れる。ピシッと肌を打つような冷たさ。しばらく波打ち際に座り、慌しかった昨日までを思い出す。今オホーツク海に面しているのは一体誰なんだろう…と、

ふと思う。

帰りはネイチャーセンターに戻らず、そのまま一般道に抜ける道を通ることにした。通行止めの看板があるが気にせず、森の中を抜ける。両脇の木々がせり出し、その奥は樹海のように。一瞬道に迷ったので



水は思った以上に冷たかった

は、と恐怖感に襲われる。地図で確認し、大丈夫と自分に言い聞かせながら、さらに走ると通行止めのバーに突き当たった。えいやっ、とそれもくぐり抜ける。まもなく一般道が見えてほっとした。

12時30分、沿道の家産物屋さんで昼食。ツブ貝やほっけ、おにぎりを買って、同じ敷地内で焼いてBBQ。さすがに一人で食べている人は周りに見当たらず、少し気がひけたけれど、空腹には勝てない。飛び切りおいしいという訳ではないけれど、他にもこの形式のお店がたくさんあったので、この辺りではこれが一般的なのかもかもしれない。13時30分、帰途につく。あまりの暑さにビールを飲んでしまったせいか、スピードが上がらない。途中、常呂(ところ)漁港センターというところに立ち寄り、旬だというサロマ湖エビと毛がに、名産のホタテを買い、自宅に送る。(この海老、家族に聞いたら、最高の味だったとか。食べていない私はこの海老の美味しさを報告できなくて残念。)

酔いが覚めた後はバイクも快調。15時過ぎに網走着。時間に



余裕があったので、網走監獄博物館へ。北海道開拓を受刑者が担っていたなんて無知にも知らなかった。道路作りの先発隊として過酷な労働を強いられ、栄養不良で道路端に屍が累々と積上げられていったという。少し厳粛な気持ちになり、ホテルに戻った。走行距離: 100.67 km

7月31日(土) 網走(呼人) - 知床(ウトロ)

バイクケースを宅配便で最終目的地である釧路に送る。作業に手間取り、8:30 出発。快晴。

前日の疲れが残っているせいか、足が重い。まだ2日目。国道 236 に入り網走刑務所を左に見ながら網走港へ。国道 244 でウトロへ。海風が強い。左手にオホーツク海とそれに続く原生花園、右手には湖が広がる。その向うで放牧された馬が草を食む。サロマ湖へはサイクリングロード



列をなし走るライダー

を使ったので、殆ど誰とも会わなかったのだが、今日は交通量の多い国道。ライダーも多い。すれ違うたびにガンバレと手を挙げてくれる。通りすぎりに、「大丈夫? どこまで行くの?」と立ち止まって聞いてくれる人や、クラクションを鳴らしながら「ファイト!」と声を掛けてくれる人もいる。見ず知らずの人の声援。若い男の子たちのグループが元気に手を振って「頑張れ」って声をかけてくれた。思わず私も「ありがとう」って手を上げて答えた。「旅」をしているという共感が敷居を低くさせるのだろう。浜小清水という場所から海岸を離れる。ひたすら続く田園風景。緑が濃い。網走を出発して、50 キロほどで斜里町に到着。目的地のウトロの住所は斜里町。それなのにまだウトロまで37 キロ。その表示を見て、疲れていた足が一気に遅くなる。既に11時、どこかでお昼を食べなくては。40分ほどして、左手に海岸線が再び現れた。峰浜というドライブインでイクラ丼を食べる。1300 円。たくさんイクラが入っていて嬉しい、さすが北海道。

峰浜からウトロまで 25 キロ、既にメータは 65 キロ。今日の走行距離は 100 キロに届くはず。途中、断崖から水しぶきを上げて落ちてくる滝があった。立ち止まって地図で確認すると、オシ



ンコシン滝。人が少ない。内地であればごった返しているはず。そのまま北上。13 時 30 分、民宿に到着。ここまでで 88.87 キロ。無愛想なご主人と勝負そうな奥さん。何だか

不安になる。1泊2食つき 4800 円だから仕方ないか…。

とりあえず荷物を軒下に置かせてもらい、ウトロ自然センターに行くことにする。地図で見るとそこから6キロ。海岸線を走っていると目の前の崖をカーブして登る急な坂が見えた。そのずっと上を車が走っている。まさかあの道は私の行く方角じゃないよね? って、思いながら進むと、その坂にしか道が続いていない。やっぱりあそこまで登るのかとぞっとした。

ウトロでの1つの目的は、「カムイワッカの滝」まで沢登りすることだった。上流の滝壺が湯船になっている秘湯だ。ダート道なので、ロードでは行けない。自然センターからのバスになる。その時刻表を調べることも自然センターに行く目的だったが、残念なことにその日はもう最終



乙女の涙の小道より知床連山を望む

のバスが終わっていた。翌日に回すことにして、徒歩40分のフレベの滝へ。別名「乙女の涙」。海に落ちる細く繊細な滝だが、そこに至るまでの小道が本当に美しい。野原の向うに知床

連山の青い山並み。鳥の声に目をやると、きつつきが。野の花が遠慮がちに咲く中を蝶が飛び交う。北海道に来たんだあ、と改めて思う。感動。

民宿に戻り、近くの温泉へ。「夕陽の湯」という名の通り、露天風呂からオホーツク海を望むことができる。コインランドリーで洗濯をしながらゆっくりお湯につかった。夕食は干物のようなお魚とジャガイモの小さなグラタンだけ。まるで足りない。貧乏旅行の先が思いやられた。夜9時から、夜の動物ウォッチングツアーに参加する。バス



の中から、懐中電灯で照らし、エゾシカやキツネを探す。昼間の猛烈な暑さから気温が下がったことで、あちこちで動物たちと遭遇できた。月明かりにくっきりと山の稜線が浮かび、幻想的。走行距離: 100.87 キロ

北海道の旅人宿

今回のツーリングでは「とほネット」のお世話になった。これは一軒だけではなかなか大変な広報活動を、インターネットを使い共同で情報発信をすることを目的に、民宿が自由意志で作ったネットワーク。これ以外にも、民宿同士の横のつながりが強く、互いにチラシを置くなどして、相互にお客さんを紹介しあっている。もてなしのスタイルはオーナーにより千差万別だが、基本的には男女別相部屋で料金設定が安く(4800 円~5300 円)、客同士の交流がしやすいという特徴があり、一人旅には打ってつけ。6時ごろ夕食を出した後、9時ごろから11時くらいまでオーナーを交えリビングで和気藹々と泊り客同志の交流が続く場合がほとんど。この背景には、オーナー自身がもともと旅人で、北海道ツーリングを繰り返すうち、そのまま住み着き、旅人宿を始める人が大半だという事情によるのかもしれない。因みに今回、店長さんに紹介していただいた羅臼の「遠回り」は、食事の品数・量ともダントツで、口コミでいつも満杯状態。オーナーを交え、夜中の2時までほぼ泊り客全員で宴会状態に。静かに旅を楽しみたい人には不向きだが、ホテルとこのような旅人宿を交互に泊まり歩けば、気分が変わって良いかもしれない。私の場合、今回は特に始めてで心細く、道路状況や穴場などの情報が欲しかったのでとても助かった。

8月1日(日)ウトロ(知床) - カムイワッカの湯 - 知床峠 - 羅臼(知床)

7時10分出発、曇り。自然センターに20分で到着。バイクを置き、バスでカムイワッカ湯の滝に向かう。まだ早いせい、乗客は私一人。知床は世界でも熊の生息密度が高い。バスの乗降所から沢を登り秘湯まで20分。「熊に遭遇するなんてそうあるものではない」と知りつつも、とても不安になる。バス停を降りても誰もいない。一人で登るしかない」と観念する。自然センターで買った滑り止め付きソックスに履き替え、沢に入る。温かい。温泉が流れているのだから当たり前だけれど、やはり不思議。四つん這いになって進む。結構深いので、バイクパンツを脱ぎ、水着だけになる。15分も行くと男性が一人降りてきてほっとした。秘湯にたどり着くと先客が3人。水着も無く、裸で入っている。湯はかなり熱い。酸性のつんとした匂いが鼻につく。湯壺に落ちる滝からの水しぶきで目が痛い。しかしそこから上にもう一つ湯壺があるとのこと。かなり急だし足場も少ないので、大抵の人が諦めるとのことだが、私は一人っきりで湯に浸かりたいという欲望に勝てず、行くことにした。慎重に足場を探りながら登る。湯壺にやはり人の影はなかった。たった一人、空を見上げ、身体を伸ばして横になる。小鳥が空を横切っていく。最高。



カムイワッカの湯の滝

帰りに知床五湖で途中下車。熊対策が終わっておらず、アクセスできるのは一つだけ。20分ほどの木道を抜けて湖へ。霧の中に浮かぶ湖はとても幻想的。

自然センターまでバスで戻り、カレーで腹ごしらえを済ませ、11時30分、高さ740メートルの知床峠へ出発。この峠を越える道は全長27キロ、日本で一番短い国道とのこと。緩やかだが果てしなく上り坂がくねくねと続く。羅臼まで25キロの看板に先は長いと少しめげていると、ハーレイダビットソンが突然横に止まり、「おねーちゃん、本気で登るの?」と聞いてきた。こんなところで、チャリに乗っているおばさんには、そうそう出会うものじゃないからなあ…。「紐で引いてあげようか」としきりに心配してくれる。私が何度も「大丈夫」だと答えると、「じゃあ、羅臼側の“熊の湯”で待っているから、頑張って登って来いよ。」と言い置いて走り去っていった。道路わきに360M、500Mと高さを知らせる表示。その度に「あと少し、あと少し」と自分に言いかけさせる。少し広い駐車場に差し掛かったところで、知床五湖のバス停で言葉を交わしたアメリカ人の夫婦がピクニックをしていた。私がバイクなのを見て唾然とした様子で、「何でそんなことができるの?信じられない」と声を掛けてきた。やっぱり少ないのだと実感する。とにかくチャリの人に出会わない。



最後の100メートルはなだらかになって意外と楽だった。まだまだだと思っていたところに、突然駐車場が現れ、「知床峠」と刻まれた石碑があった。やった! 740メートル。霧



がかかっているの、知床半島の両方の海岸線は見えないが、左右に緑の山々が連なり、正面に羅臼岳が迫っている。追いついて来たアメリカ人の夫婦としばし話をして、身体を休める。外人はこんなとき人懐こい。

バイクボトルに水を足し、一気に下る。つついオーバースピードになるので、時速50キロをキープして走る。切る風が気持ち良い。ふと、スキーの感覚を思い出す。そうだ、スキーが何時も楽しいのは、この下りしかないからだ、と気付く。バイクもリフトで登れるといいのに。

雨は降らないものの天気は下り坂。風が冷たくなってくる。Tシャツの汗が身体に当たって寒い。あと数キロで羅臼というところに「熊の湯」はあった。白い湯気があがり、道端にたくさんの車が停まっている。私もそそくさとお風呂の支度をもって、湯に向かった。男女別の露天。湯は白く、熱くて触れないほどの源泉がそのまま引かれている。湯温もかなり高い。気持ちいい。疲れが一気に吹き飛ばす感じ。湯質がかなり良いような気がする。これが無料。信じられない。気が付いたら、1時間半もお風呂に浸かっていた。北海道は温泉天国。

羅臼の宿は、平野店長さんが紹介してくれた「遠回り」という民宿。まだ建てて新しいらしく綺麗。隣のコンビニでビールを買ってきて夕飯前に飲む。知床峠超えの一杯。今回のツーリングのハイライト。良かった、無事羅臼にたどり着けて。走行距離: 39キロ



北海道の共同温泉

温泉はお金を出して入りに行くもの。こういう考えが今回は完全に覆された。道東にはいたる所に、無料で入れる良質の温泉共同浴場があった。羅臼で二日連続通った「熊の湯」はその最たるもの。キャンプ場の近くにある天然の露天風呂で、毎朝6時にキャンパーが掃除をする。熊の湯では、恐ろしく熱くても、決して水で薄めてはならない。一日目、余りの熱さに他の観光客と一緒に沢の水で薄めたら、地元民の冷やかな視線を浴びた。熱いと騒ぎたてる観光客を「何も知らんで…」という顔をして、満足げに傍観する、というのが通だ、というのを二日目に知った。その後、私も後から来た客が騒ぎ立てるのを、何食わぬ顔で「傍観」し、「通」の振りをした。

8月2日(月) 羅臼 - マッカウスの洞窟 - 相泊 - セセキ - 羅臼

朝から土砂降り。さすがに出られない。10時過ぎになって少し小降り。同宿のライダーたちが痺れを切らして一人、二人と出発していく。11時近くになり、やっと雨が上がった。知床半島の道が続く限り北まで進むことにする。途中、ヒカリゴケの生息地に寄る。洞窟の中で青緑色に密かに発光している。バイクもさすがに4日目ともなると慣れてきて、ペダルが軽く感じる。疲れはあるけれど、しょっちゅう温泉に浸かっているせいか、それほどダメージはない。この日向かったのも、満潮時には沈んでしまう海辺の露天風呂、セセキ温泉とその先にある相泊温泉。道路で行ける日本最北東の地。セセキ温泉につくと何も身にまわっていない男女が楽しそうに。しかしそれが道路から丸見えで目のやり場がない。居合わせたライダーと目を合わせ、どうしようもないねって互いに顔きながら、次の相泊温泉へ。ここはかろうじて男女別。ドアもなく覗き込めば丸見え。ただ、お湯が浜の砂利の下からどンドン湧き出ているのが見え、誘惑に勝てず入ることにする。本当によいお湯。ゆっくり浴びてから、道路のどん詰まり、とど肉が食べられるという「熊の穴」食堂へ。とど肉を思いとどまり、羅臼の名産、昆布のたくさん入ったラーメンを注文。とても美味。横を見るとセセキで顔を合わせたライダー。とど肉を食べている。内心注文しなくてよかった、と安堵しながら、挨拶をする。

会計を済ませて、外に出ると先ほどのライダーが待っていて、「セセキに入りますか?」と聞いてきた。「入りたいけどさっきの状態だと無理ですよ?」と私。「行って見て、状況次第では一緒に入ってくれませんか?」と彼。「はあ?」と聞きなおすと、実は去年も来たんだが、勇気がなくて入れなかったとのこと。直径がたった2メートルかそこらの混浴だと、なかなか一人では入りづらいもの確か。とりあえず行ってみましょう、ということになって戻ると、先ほどの裸の男女はいない。よかったね、といいながら、二人水着に着替えた。ぬるい、藻がたくさん入ったお風呂。よい湯とは言えないけれども、海の中のお風呂。それなりに風情がある。2年越しの念願を果たせた彼も写真など撮ったりしてとても嬉しそう。帰り道、昨日行った熊の湯(また温泉!)にどうしても行きたくなり、2連チャン。2時間ほどゆっくりして宿に戻った。走行距離:74.4キロ



昆布干し(羅臼)

8月3日(火) 羅臼 - 薫別 - 川北町 - 開陽台

8:30、曇り。開陽台に向けて出発。薫別を左に古多糠へ。そこからは延々と続く酪農地帯。ミルクロードと呼ばれる地域だ。野付国道に突き当たり、左右どちらの道を選ぶのが悩んでいると、また、ハーレイダビットソンが横に。右のルートは民家も何もないけど、左のルートなら町があって農協もあるから、水とか補給できて楽だよ、と教えてくれた。有難い。地図はお店があるかどうかまでは書いて



コーヒーショップ雨傘

ない。川北という町を通りかかると、「雨傘」というコーヒーショップがあった。バイクを止め、覗いてみると、かけてある絵も何だかおしゃれ。入ると品の良いおじいさんが静かにコーヒーを入れている。こんな田舎町に、といふかりながらもそこでお昼にする。パンをずっと食べていない。トーストを頼むと、学生時代の喫茶店のモーニングセットを思い出すようなゆで卵とサラダ。そして、北海道に来て初めてのコーヒー。窓際から心地よい風が背中に当たる。限られた荷物の中で敢えて持参した本を取り出して、しばし読みふける。ふとコーヒーの良い香りに顔を上げるとおじいさんが、「もう一杯どうですか?」と聞いてくれた。お礼を言い、脈絡もなく突然、「フランスですか?」と聞いてみた。ニコッと笑い「僕は若い

頃映画が好きだったんですよ」との答え。やはり、シェルブルかと納得。札幌で35年コーヒーショップをやり、2年前に故郷の川北に戻ったとのこと。あまりの居心地の良さに、さらにケーキなども頼み、本を読みながら2時間ほどを過ごした。こんな素敵な出会いがあるなんて。

心を残しながらも、残りの行程に行く。馬や牛がたくさん。牛と目が合った。バイクを止めると、柔和な目で私を見てこちらに向かって歩いてきた。目で気持ちが伝わる? 続けて何頭も歩いてくる。めずらしいから? いずれにしても意思が伝わる? 牛との思わぬコミュニケーション。不思議な気がした。



民宿に荷物を置き、330度の地平線が広がるという開陽台へ。山の上を見上げ、あそこまで上らなければいけないのかと気が遠くなったが、ここまで来て行かない訳には行かない。気を取り直して坂を上る。ひたすら上る。頂上は曇りで残念ながら、地平線とまでは行かなかったが、前後左右見渡す限りパノラマが広がっていた。来てよかった。走行距離:73キロ



開陽台のパノラマで

8月4日(水) 開陽台 - 中標津 - 虹別 - 標茶 - 塘路 - 釧路

8時30分出発。快晴。ミルクロード(272号線)を一気に釧路まで下る予定だったが、町もお店もないとのこと。予定を変更し、釧路湿原を下ることにした。120キロと今回のツーリングでは一番長くなるが、日が暮れるまでに釧路に着けば良い。



中標津空港を左に見て町を抜けたあとは、相変わらずアップダウンの激しい道が続く。上りきった坂の頂上で、下ったあとの延々と続く次の上り坂が常に見えるという調子。虹別を過ぎ、釧路湿原に入った頃からスピードが突然落ちた。時速20キロほどしか上がらない。向かい風。常時、津軽海峡から風が吹き上げてきて苦しい、とは聞いていたが、ここまでスピードが落ちるとは。下りでさえ上りに感じる。時速15キロから17キロのペースが続く。ため息が出る。その反面、いつまでも終わって欲しくない、という気持ちもある。何をしようと、どういう状況になると、今回のバイクツーリングは今日



が最後。ホテルに着けばすぐにバイクを梱包しなければならない。「しんどい！」思いと「寂しい！」思いが交錯する。

途中、道路脇のA-Coopに入り、パンとヨーグルトを買い出入り口の階段に座り腹ごしらえ。人がじろじろ見ていく。こんなこと、普段はまずしない。自分がどどん野生化していく気がした。

標茶ではおしゃれな洋館のビストロがあった。Tシャツとバイクパンツという出で立ちを考えると一瞬躊躇したが、食欲には勝てず、焼きたてパンとビーフのトマト煮込みを満喫。会計の時、ボトルを出したら快く氷をたっぷり入れた水で満たしてくれた。ありがたい。13:30、お礼を言い釧路に出発。ペダルが重くスピードの出ない苦しい展開で、腰が痛み出す。一時間ほどで、五十石温泉にたどり着いた。行程最後の“道端”温泉。まだ先が長いので、あまり時間は取れないとは思ったが、腰痛がひどく、30分だけ休憩をとることにした。湯船で腰を伸ばす。熱くて気持ちいい。

リフレッシュし、15:00出発。あと50キロ。シラルト口湖、トウ口湖。湿原の中、左右に湖が広がる。雄大。釧路は常に曇り、カラッとしなないお天気、との話通り、雨がばらついてきた。既に16:00。最終目的地である釧路プリンスに果たして18:00までにたどり着けるのだろうか

リフレッシュし、15:00出発。あと50キロ。シラルト口湖、トウ口湖。湿原の中、左右に湖が広がる。雄大。釧路は常に曇り、カラッとしなないお天気、との話通り、雨がばらついてきた。既に16:00。最終目的地である釧路プリンスに果たして18:00までにたどり着けるのだろうか

か…、不安になる。雨と共に少しずつ車が増える。真横をスピードを上げ通り抜けていくトラックの数が次第に多くなる。車に追い立てられるように私も最後の力を振り絞り、必死でスピードを上げる。もうホテルのことしか頭にない。一刻も早くたどり着きたい。送ってもらったパンフレットで見たホテルの茶色の建物だけをひたすら探して前に進んだ。釧路駅を通り抜け、17:15、ようやくホテルの車寄せに到着。良かったあ。



カヌー下り

でも、おかしい！ドアマンが硬直している。あ、多分私の服装のせい！と思ひ至る。私もどうしていいかわからず、エントランス前で立ち止まった。ワッペン置き、ドアマンが「お泊りですか？」と聞いてくれた。頷くと、当惑気味にコンシェルジェのところまで案内してくれた。まず困っているらしいのがバイクの処理。駐車場の方に案内しようとする。6日間の行程で既にバイクはどろどろ。ついでに言えば私自身もノーメイクで、かつ汚いTシャツとバイクパンツでどろどろ。私はおらずこのバイクを分解してバイクケースに詰めたいので、どこか明るいところを貸してくれないか、と頼んだ。あまり良い顔をしない。

後でもう一度頼むことにして、とりあえずチェックインをさせてもらった。お風呂に入り、久しぶりにお化粧をし、普段の服装に着替え、ロビーに降りていく。コンシェルジェの態度が180度違う。やっと文明にキャッチアップした感じ。階段横のロビーの一角に案内される。作業で床が汚れないよう大きなビニールシートを下に敷いてくれた。普段室内に置いて大事にしているので、青いビニールシートには違和感があったが、よく考えれば当たり前。バイクって、普通は外においておくものだという一般的な認識が自分には欠如していたことに気づく。持参したタオルで丁寧に拭く。始めは濡れタオルで、そして次に乾いたタオルで丹念に。

「ありがとう。開陽台の330度のパノラマの中では、本当に小さく頼りなく見えたけど、その分、けなげで愛しかった。6日間、一緒に旅をしてくれてありがとう。」

フレームを、車輪を、そして、ペダルを拭きながら、6日間の行程のシーンがひとつずつ思い出され、涙がこぼれそうになった。

パッキングを終了し、街に出た。完走祝い。ちょっと高級そうなお寿司屋さんに入る。これまでの数日間一泊2食付、4800円~5000円という旅をしてきた身にはかなりの贅沢に思える。カウンターの前を陣取り、お勧めで握ってもらってビールで乾杯。初めてのバイクでの一人旅に「乾杯！」。折りしもお店は、苫小牧駒沢が北海道勢として初めて甲子園から優勝旗を持ち帰ったことで、最高潮に盛り上がっていた。

旅行を終えて：今回のツーリングは、これまでの旅行の中で最も印象深いものの一つとなりました。子供たちが完全に手を離れた今、家庭や仕事という枠組みや様々なしがらみから、勇気を持って一歩を踏み出し、自分を形成して来たバックグラウンドを少しも引きずらず、何も持たない一人の裸の人間として、社会というものに対峙した気がしています。そこで見た自分の姿は、「一人の変わり者の世間知らずの中年女性」でした。人間として一番基本となる自分自身の底辺を見たことが、今後生きて行く上でどれほどの力になるか計り知れないと感じています。

終わりに

まず、こんなに発送が遅れましたこと、お詫びします。今回は自宅のPCがイメージを貼り付けるたびにフリーズしてしまい、会社のPCでの作業となりました。ほぼ2ヶ月遅れです。すみません。

プレス編集に当たり7月1日から8月31日までのメールを読み直しました。メンバーの皆さんがそれぞれにお忙しく、イベントへの参加者が多いとは言えないものの、このメーリングリストを通じてポイント報告があったり、サイクリングへのお誘いがあったりして、互いの活動の様子がよくわかり、それによって、奮起させられたり、心配したり、勇気をあげたりもったりと・・・。

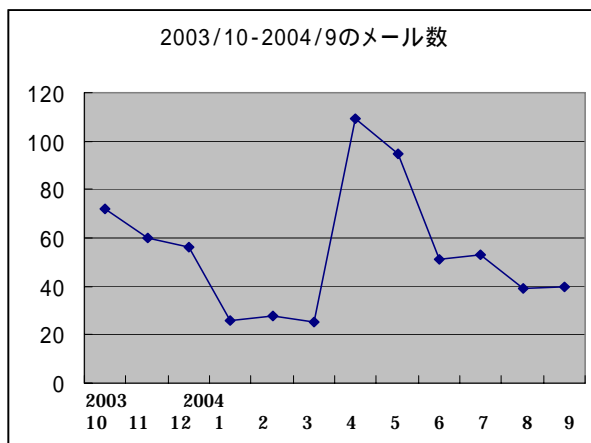
私はこのチームがこのように互いに助け合い励ましあえる仲間であることをとても誇りに思いました。私自身、報告できる仲間がいることで、もっと頑張ろうと思えたのは事実です。

報告したり感じたりしたことを伝える人がもしいなかったならば、きっとこんなに頑張れないに違いありません。

ところで右上のグラフは、昨年10月から今年9月にかけて、メーリングリスト内を行き来した、メールの総数です。ずいぶん波があるようです。シーズンオフはやはり行き交うメール数も少ないのですが、3月の総会からシーズン開始とメール数が俄然増えていきます。意外だったのは、シーズンが真っ盛りになる6月-9月にぐんとメール数が減ってしまっていることです。これはチームメンバーの置かれた環境をよく物語っているのかもしれませんが。

それぞれの事情を抱えつつも、忙しい中でトレーニングの時間をひねり出し、地道にレースに備えているメンバーもいれば、「いつかは本格始動」と復活の日を夢見て、今現在を一生懸命頑張っているメンバーもいます。トライアスロンは、瞬発系のスポーツと違い、何歳になっても各自のペースに合わせ、じっくりと取り組めるのがすばらしいところ。子育て・仕事・体調と事情はそれぞれありますが、後藤さんがおっしゃっているように、いつか皆で出場できる日が来るように、今を大切に、今後も互いに励ましあい、影響を与え合い、やっていけるといいなあと思います。

古井さんのレース報告は9月分ですが、とても早くにいただいてしまいましたので、次号を待たず、勝手に7-8月分に入れさせていただきました。次号の掲載分が減ってしまい、ごめんなさい。以下、メールで追ったメンバーの活動報告です。



メールログで見る活動記録(7月・8月)

- 7/4 バイクライド。午前9時にハートビュースタート。中原街道-境川-江ノ島-134号線を小田原方面。(大石・徳江)
- 7/10 8時半ハートビューをスタート、環状2号経由国道1号から134号。又は中原街道経由境川(藤沢)から134号を予定するも、雨のため残念ながら箱根へたどり着けず。(大石・安部・藤井)
- 7/25 7月イベント。鶴見川ラン
- 7/29-8/5 北海道バイクツーリング(西田)
- 7/30 箱根ライド予定(大石)
- 8/4 湯河原バイクライド(大石)
- 8/8 オーシャンスイム&ビーチラン
- 8/15 湘南OWS 10km。残念ながら強風の為中止。(佐藤)
- 8/15 日米親善(永田)
- 8/22 三浦遠泳(安部)
- 8/22 岡山県倉敷市の児島トライアスロン(山本)
- 8/22-27 下関(巖流島) - 熊本バイクツーリング(山本)
- 8/29 アイアンマン・コリア、台風16号でスイム中止デュアスロンでの開催(大石・綱島)